

統計グラフ制作指導

一宮市立中部中学校

1 コンクールへの参加

平成25年度までは、ワードやエクセルの技能向上を目指し、もっぱら部内で作品制作に取り組み、発表の場は校内の行事に限られていた。しかし、26年度にグラフコンクールの存在を知り、出品を促したところ、2名の生徒が1つの作品に取り組むこととなった。それが愛知県のコンクールで銅賞を獲得し、次年度の出品の動機づけになった。

とはいえ、グラフ作品を制作できる技能をもつ部員は限られており、2年目は5名の部員が2作品を出品するも、入賞は果たせなかった。そして、今年度は13名の生徒が5作品を出品することとなった。歩みは遅々としたものだが、グラフ制作は定着しつつある。

2 作品づくり

今年度の作品づくりの指導は以下のように行った。

	テーマ決め	アンケート作成・実施	グラフ作成
活動内容	日頃の学校生活の中で、気にかかること、他の生徒に考えて欲しいことなどを取り上げさせる。	調査したい項目や対象を決めさせ、アンケート用紙を作らせる。	アンケートの集計を行い、適切なグラフの形式を選ばせた後、全体の構成を考えさせる。色使いも工夫させる。
留意点	家庭や学校で疑問に感じていることを列挙させ、個人的関心にとどまることなく、社会性をもったテーマになるように指導した。	回答する人の立場に立って、より答えやすい項目立てや言葉遣いなどを考えさせた。文字の大きさや改行の仕方でも、答えやすくなることを伝えた。	集計結果の正確性を保持しつつ、グラフの連続性を第一にレイアウトを考えさせた。最終的にそこから導かれる結論が見えてくる作品となるよう助言した。
成果	5作品のテーマが、重複することなく、各自が責任を持つものになった。	1～3学年の1学級ずつにアンケートを依頼し、学年ごとの傾向がつかみやすい結果が得られた。	5作品が独自性を持ち、キャラクターを考えた組もあり、工夫が見られた。構成のヒントを先輩の作品から得たり、生徒同士で助言し合ったりしていた。

3 今後の課題

部活動として取り組む中で、パソコンの技能差だけでなく、学習能力も生徒間で差があるため、一律に指導できないことがネックとなった。さらにこの3年間で顧問が変わり、顧問間の技量差も生徒にとっては気の毒なことであった。

しかし、3年目に入り、統計グラフコンクールへの参加が当たり前となり、常時部活動に出席している部員が全員コンクールに出品するまでになった。今後は数学や社会、美術など他教科の先生からも意見を頂き、まず出品という段階から、より内容の濃い、完成度の高いグラフ作品づくりの段階へと高めさせたいと思う。

